

2025（令和7）年度 国際版画美術館 事業報告書【展覧会版】

展覧会名	版画ってアートなの？		担当者名	川添愛奈		
会期	2025年7月5日（土）～ 9月21日（日）		開催日数	68日間		
協賛・後援・協力	なし					
巡回館	なし					
展覧会概要	版画の実用品と美術品としての側面に注目し、大衆的な印刷物から著名なアーティストの作品、そして現代アートまで、版画の多様な魅力を約130点の作品で紹介する展覧会。大学版画展受賞作品として収蔵している作家の長田奈緒氏に出品を依頼した。					
ねらい・対象	夏休み期間の収蔵品企画展であるため、市内外の小中学生とその保護者をメインターゲットとして、美術館初心者の方が版画に親しみと関心を持ち、さらに美術鑑賞自体に親しめるような企画とした。当館に足を運んだことのある来館者に対しては、これまでにあまり展示機会のなかった作品を選んだことや、アートについて問いかけるコンセプトとしたことで、当館のコレクションの新たな魅力を発見できるようにした。収蔵品に加え、本展のテーマと通じる制作活動を行う長田奈緒氏を取り上げ、現代アート関心層にも訴求する展覧会構成とした。					
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数	
	トークイベント	7月19日（土）	トークイベント（手話通訳付） アーティストのまなざしで見ると本展	出演：長田奈緒氏（アーティスト） 聞き手：川添愛奈	32人	
	バックヤードツアー	8月2日（土）	親子で探検！ 美術館バックヤードツアー	川添愛奈 協力：博物館実習生	34人	
	こどものための鑑賞会	8月20日（水） 8月23日（土）	0歳からOK！親子で楽しむ展覧会ツアー	富田めぐみ氏（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事）	16人 23人	
	ギャラリートーク	8月9日（土） 9月13日（土）	担当学芸員によるおしゃべりギャラリートーク	川添愛奈	25人 20人	
	プロムナード・コンサート	9月6日（土）	連弾で奏でる音色のアート	林崎祥子 ミヒャエル・ハーゲマン	144人	
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日		
	800 円	400 円	無料	・初日：7/5 ・シルバードデー（満65歳以上無料）：7/23、8/27		
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、中学生以下
	5,192 人	2,671 人	7,863 人	6,310 人	501 人	1,052 人
	目標値			9,300 人		
主な収入	観覧料収入	図録販売収入	受託販売収入	その他の特定財源		
	3,249 千円	— 千円	615 千円	— 千円		
事業経費	・講師謝礼	45 千円				4,538 千円
	・事業協力謝礼	115 千円				
	・著作権使用料	118 千円				
	・著作権使用申請委託料	55 千円				
	・設置・撤去委託料	855 千円				
	・作品額装委託料	668 千円				
	・広告・宣伝委託料	638 千円				
	・ポスター等作成委託料	1,150 千円				
	・ディスプレイ作成委託料	847 千円				
	・イベント企画運営委託料	47 千円				
主な広報・取材等	【テレビ】「多摩テレビ」（TTV-NOW）、「地モトNEWS」（イツコム） 【新聞・雑誌】神奈川新聞、東京新聞（ウェブ）、埼玉新聞（ウェブ）、神戸新聞（ウェブ）、『KYODO Weekly』、『CLUÉL』、『PHOTOSAI』、『月刊美術』、『アートコレクターズ』、asacocoほか 【ウェブ】「美術展ナビ」、「美術手帖」、「Fashion Press」、「IM（インターネットミュージアム）」、「アートアジェンダ」ほか					

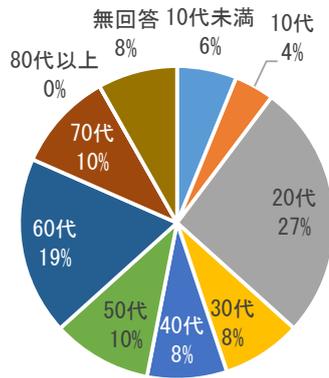
アンケート結果	回収数		回収率		市民率		リピーター率		満足度(とても良かったと良かったの率)					
									企画の内容	展示作品	展示の仕方等			
	219	件	2.8	%	26	%	59	%	98	%	98	%	86	%
	主なご意見		別紙参照											
工夫と反省点、改善方法	予備調査		<p>2024年11月頃から出品作品の調査を開始。ポップアートや現代アートの作品を足掛かりに、当館の各学芸員の協力のもと、収蔵作品全般の調査を進めた。展示機会の少なかった島州一の大型作品やヴィクトル・ヴァザリなどの立体作品については展示方法やコンディションを調査したほか、当館普及担当学芸員に相談し、飯塚二郎など過去の公開制作に関する資料と作品を一部調査した。</p> <p>また当館学芸員の高野詩織・藤村拓也と協力体制を作り、企画会議を重ねて準備を進めた。大学版画展受賞作品を当館で収蔵している作家長田奈緒氏と3月にアポイントメントを取り、制作活動の調査を経て出品とイベント出演を依頼した。</p>											
	作品選択		<p>幅広い時代、分野の作品を扱うため、とくに1章、2章では当館学芸員に各分野の作品選定を依頼した。「1章 版画の作りかた」「2章 版画が作られるとき」「3章 これってアートなの?」「4章 これって版画なの?」の4章構成とした。1章、2章では初めての来館者にも版画の仕組みや特徴のちがいが視覚的にわかるように道具や動画とともに名品で示し、3、4章では平面作品だけでなく、工業製品や立体・大型作品、コンセプチュアル・アート作品など、一見版画と思えないようなポップアート以降の作品を示し、版表現とアートの自由さを感じられる構成とした。</p>											
	リーフレット		<p>A5横型12頁の鑑賞ガイドを3000部作成した。ジョアン・ミロによる長さ9メートルの作品の全図を掲載するために横型とした。デザイナーの提案により、版画の反転する仕組みがデザインに取り入れられ、版画の特徴をわかりやすく伝える表紙となった。内容は全4章の内容をコンパクトに紹介するもので、著作権のある作品も積極的に使用許諾を得て掲載した。冊子は会場受付で希望者に配布をおこない、会期後半で配布上限に達した。</p>											
	広報		<p>草間彌生の『Art Editions Yayoi Kusama』シリーズより《私の犬のリンリン》をメインビジュアルに使用し、出品作のバラエティを示すために複数のジャンルの作品を配置するデザインとした。ポップで親しみやすいイメージを伝えることで、子どもたちにも楽しんでもらえる企画であることをアピールした。市内の公立小中学校や各地区センター、全国の美術館など、約700カ所に広報物を送付した。来場者のうち約20%が大学生以下となり、メインビジュアルの効果を感じた。来場の動機として最も重要な情報源であるホームページには、著作権のあるピカソの目玉作品を掲載するなどして力を入れた。</p>											
	宣伝		<p>ビジュアルの訴求力が高く、30代以下の利用者が多いInstagramを活用して有料広告を出稿した。クリックへの反応が最も多かったのは55歳から64歳であり、広告動画視聴率は18歳から24歳が高かった。来館の直接のきっかけとなったかどうかはアンケート結果には明確に表れていないが、20代以下の来館者の割合が通常よりも多かったことから、潜在的な動向への影響が予想される。アンケートの回答は20代の割合が27%と全年齢層の中で最も多く、通常よりも若い年齢層から反応が得られた。</p>											
	ディスプレイ		<p>作品キャプションは子ども向けに総ルビを振り、解説パネルはすべてわかりやすい内容となるよう心掛けた。来館者が戸惑うことなく鑑賞できるように展示室の入り口付近に「鑑賞の楽しみ方」と題したパネルを設置し、作品を自分の感性で自由に鑑賞することについて伝えた。作品を楽しむヒントや小話を書いた子ども向けの解説シールを20枚以上設置したところ、一般の来館者にも好評だった。</p> <p>夏休み開始の7月19日から展示室と館内を巡るスタンプラリー（先着2000名）を高野が主導して実施したところ、子どもを中心に好評を得て、会期末に配布上限に達した。</p>											
	イベント		<p>親子向けイベントを複数開催し、0歳からの親子鑑賞会、小学生とその保護者を対象とするバックヤードツアー（博物館実習）はどちらも予約開始数日で定員に達した。鑑賞会ではリピーターが見られるなど、0歳からの鑑賞が定着しつつある実感を得た。長田氏出演のトークイベントでは、ポップアートの流れを汲む現代アートを好む層や、制作や美術を学ぶ大学生などから現役のアーティストへの積極的な質疑が飛び交うなどして盛況だった。</p>											
	団体見学・学校対応		<p>積極的に学校対応の受け入れを行った。市内中学校美術部3校（木曽、金井、塚）、N中等部（町田校・橋本校）、東京造形大学が団体に来館した。展示案内だけでなく、案件に応じて学芸員の説明や美術館の裏側の紹介などを行った。小学校教育研究会図工部の研修会に普及担当学芸員とともに協力し、綿密な打ち合わせを経てグループワークと鑑賞、制作のプログラムを実施。図工教諭が美術に対する価値観をアップデートする機会となるなど、展示主旨が活かされる機会となった。今後も展示見学を鑑賞教育の場として活用してもらえるよう、積極的にアピールしていきたい。</p>											
その他特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・町田市主催イベント「Future Park Lab 2025 Summer」（8月16日）のなかで、影絵人形作りのワークショップに協力し、参加者の小学生とその保護者に向けて展示室内で2作品を解説した。 ・鑑賞教育という専門性を全面に出した内容を試みたが、展示全体の情報量と作品説明の過不足のバランスに苦労した。今後は出品数や特集内容を調整することも考慮しつつ、美術の魅力をわかりやすく伝え、親しんでもらうという基本的な方向性は変えずに取り組んでいきたい。 												

2025（令和7）年度 国際版画美術館 アンケート集計結果【版画ってアートなの？】

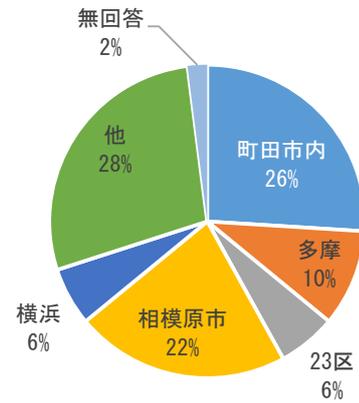
開催期間：2025年7月5日（土）～9月21日（日）

回答者数：219人（総入館者数：7863人 アンケート回収率：2.8%）

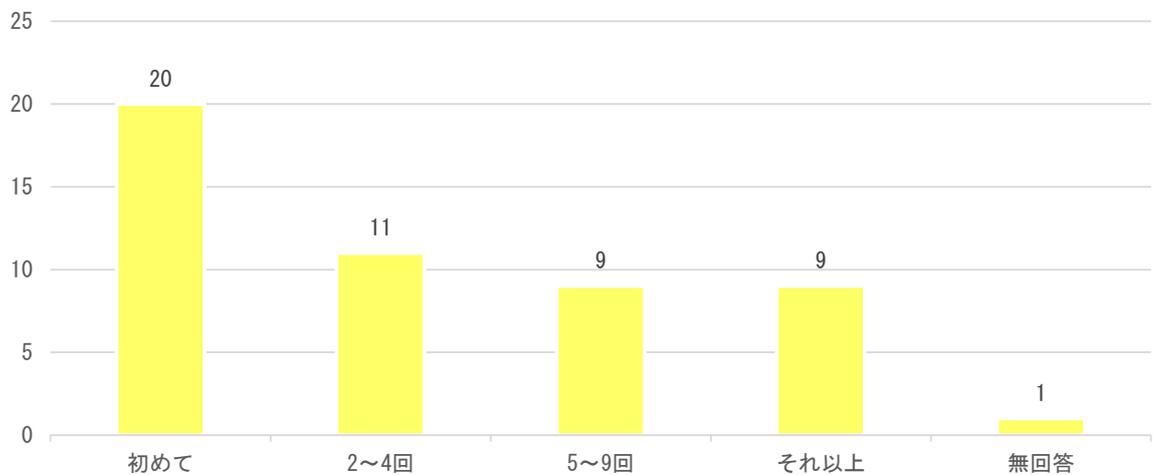
1. 年齢層



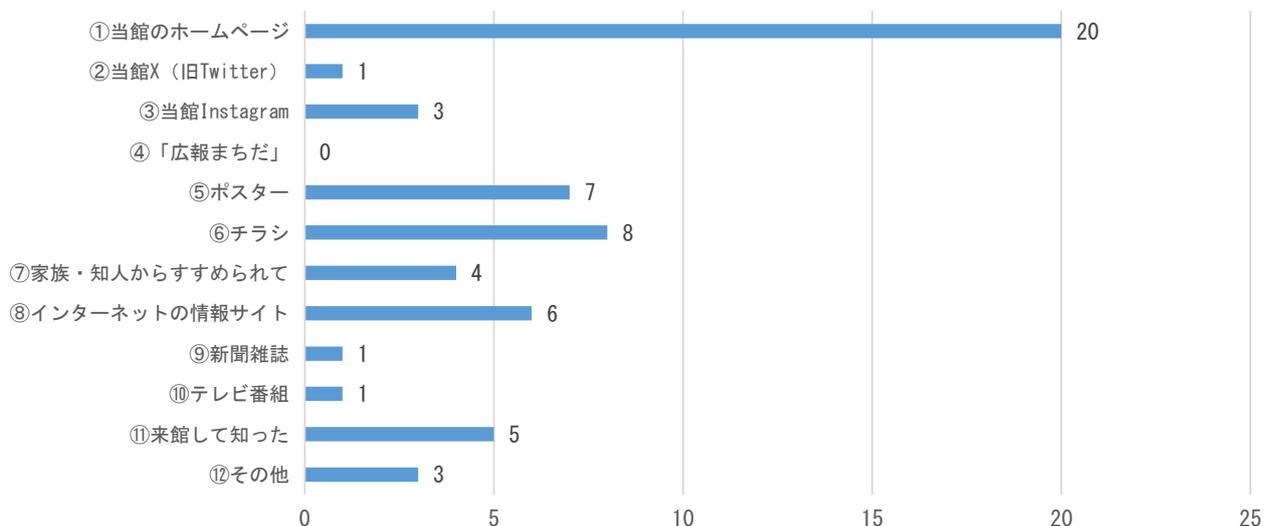
2. 住まい



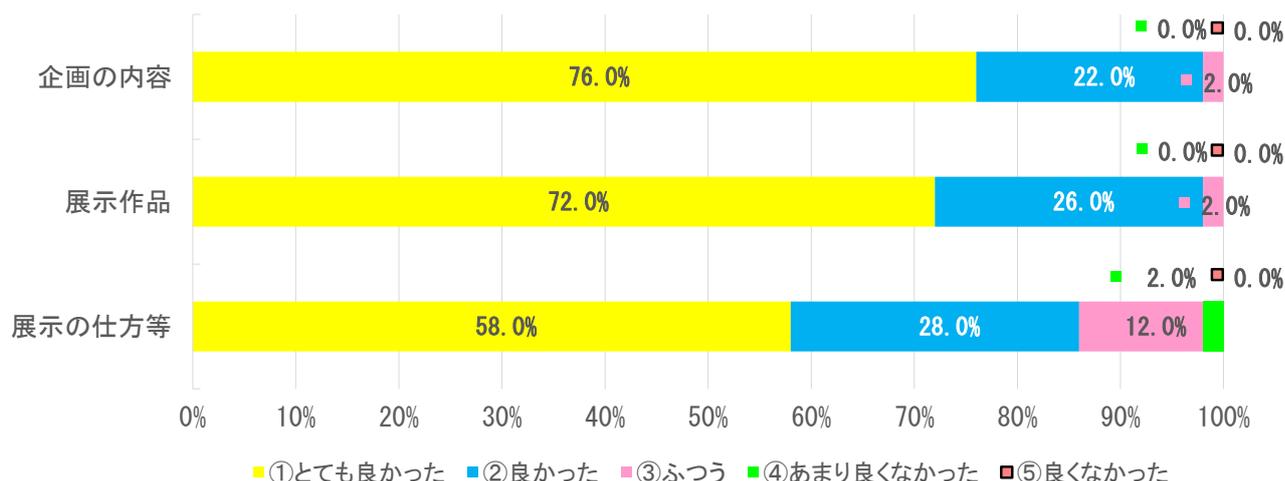
3. 来館回数（人数）



4. 展覧会情報の入手（人数）



5. 回答者の満足度



6. 主なご意見・ご感想

◆企画の内容

- ・美術館自体初めてでしたが、とても落ち着いた空間で居心地も良く、初心者でも楽しめるガイドが多かったのが美術館が好きになりました。たまたま通りがかっただけでしたが入ってみて良かったです。また来たいと思います。
- ・近場にある美術館ながら、なかなか行く機会なく、こんなに展示作品が充実していること知りませんでした。今度からはもっと定期的に遊びに行きたいと思います。
- ・版画の種類について、キャプションでの刷り方の説明しか見たことがなく、あまりはっきりと違いが分かっていなかったが、それぞれ映像や道具、触れることのできるコーナーなど複数のもので違いを説明されていて分かりやすかった。これから版画作品がもっと楽しめそう。
- ・はんがってアートなの？の題の通り、自分の身近なものから作品まで、何がアートと言えるのかを考えられる展示でした。複製という点から、そのものの存在を問われている作品がポップアートでは多くあるように感じました。
- ・版画を今までは「ウーン…」と思ってさけていたが「これもか！これもか！」の発見が楽しかった。来て良かった。
- ・展示が進むにつれて、版画がより自由なアートとして姿をかえていく様が良い良かった。静かな環境で作品に没頭できた。
- ・版画は小学生の図工でやった以来全くふれていなかったの、知らないことばかりでとても楽しめました！周辺的环境も良く、すてきな美術館でいやされました。また来ます！
- ・NHKドラマひとりでしにたいのロケ地としてはじめて知りました。館内もとても美しく、展示内容もとても良かったのでまた来たいと思いました。今まで日本の版画作品ばかり見ていたので、海外の版画を多く見ることができ楽しかったです。
- ・「自由に作品を見ていい」というようなメッセージを感じ、とてもすてきな展示だと思いました。
- ・美術の意味、版画の意味たのしさ、面白さをわかりやすく展示していて、たのしかったです。
- ・こんなにゆっくり楽しく見続けられたのは、はじめてです。展示の工夫がいっぱいされているだろうと思います。またきたいです。
- ・ミロのまきもの全てを見られたのが嬉しかったです。
- ・毎年、夏の展示を楽しみにしています。今年のは子供にも親しみやすく、とても良かったです。
- ・スタンプラリーがあり、子供連れも来やすくよかったです。

◆要望等の意見

- ・市民には割引等があるとありがたいです。
- ・とてもよかったです。版画美術館まで、バスを出してくれるのもっと良いです。坂道が多いので歩くのが時間がかかるのでよろしくお願いします。
- ・町田駅からの高低差が大きく、足の悪い人等、特に帰路が大変。
- ・せっかくの作品がライトに反射してたり、アクリルに周りが映っていたりしているものがあり、もったいなかった。